

まちエネ協議会 DB 部会 座談会 開催報告

日時：2019年1月23日(水)、15:00～17:30  
場所：中央区立環境情報センター 研修室  
会合：第7回座談会  
主催：街づくりエネルギーマネジメント推進協議会 エネルギーサービス DB 部会  
テーマ：「持続可能な超スマート社会を実現するエネルギーサービス DB の構築戦略」  
議題：1) 関連話題の提供と意見交換  
① 「スマートシティ関連 PJ の取組み事例」(内藤氏)  
② 「スマートシティにおける AI 活用事例」(曾我部氏)  
2) テーマ討論  
① 「規制改革」

座長	：早稲田大学	高口 洋人氏
司会	：エコまちフォーラム	中丸 正 氏
幹事	：日立製作所	古谷 雅年氏
補佐	：日立総合研究所	板橋 一男氏
討論者	：日本電気	内藤 政宏氏
	グリッド	曾我部 完氏
	日建設計総合研究所	河野 匡志氏
	高千穂大学	竹内 淨 氏
	アシスト	折原 忠夫氏
	日本総合研究所	藤波 匠 氏
同席者	：グリッド	鈴木 理恵氏

## 1. 概要

2019年1月23日(水)、中央区立環境情報センターにて、街づくりエネルギーマネジメント推進協議会 エネルギーサービス DB 部会(部会長：早稲田大学/高口洋人教授)主催により、「持続可能な超スマート社会を実現するエネルギーサービス DB の構築戦略」と題した第7回座談会が開催された。第1～6回までの座談会では、テーマに関連して累計15件の話題提供をいただいた。第7回ではデータ利活用の観点から新たに2件の話題提供をいただき、新たな切り口で議論を展開する。また、2018年に規制改革ホットラインへ提案された主たるテーマを振り返り、今後の方向性を協議する。

## 2. 話題提供と意見交換

座談会主査である早稲田大学の高口先生より、座談会の趣旨説明や関連する国の新たな政策・事業の紹介があった。その後、データ利活用に関する2件の話題提供をいただいた。



日本電気の内藤氏からは、「スマートシティ関連 PJ の取組み事例」と題して、特に、オープン

データプラットフォーム「FIWARE」を活用した自治体での取組について説明があった。高松市では「観光」と「防災」を具体的なテーマとし、兵庫県加古川市では「防犯」をテーマにして取り組んでいる。また、スペイン・サンタデル市ではゴミ収集の効率的な回収に活用している。いずれの場合も、個々のアプリケーション・サービスごとの利活用であり、担当部局をまたいだ相互利活用や最近注目を集めているのは EBPM（証拠に基づく政策立案）への活用は今後期待するところである。日本も海外も「エネルギー」視点での活用はまだである。

グリッドの曾我部氏からは、「スマートシティにおける AI 活用事例」と題して、高速道路の渋滞予測や発電所、VPP(仮想発電所)の最適制御への AI 適用事例について紹介があった。検証データを見る限り、従来手法に比べて効果が改善できることは多い。一般的に、AI はブラックボックスであると思われがちなことに対して、いかにして理解を深めるべきかについて、討論者で議論を交わした。また、AI を含むデータ分析ツールの多くは、どんな IoT 基盤とも連携可能で、データフォーマットの統一性を問わない。

## 3. テーマ討論

座談会幹事である日立製作所の古谷氏より、2018年に各団体から規制改革ホットラインへ提案されたテーマのうち、本座談会でも注目すべきものについて紹介があった。本座談会からは「計量法」や「スマートメーターのデータ利活用」に関する5件の提案をし、うち2件については、経産省の「次世代技術を活用した新たな電力プラットフォームの在り方研究会」（座長：地球環境産業技術研究機構/山地憲治氏）においても詳細検討されている。今回の座談会においては、特に街区単位の地域コミュニティにおいて、少額の P2P での電力相互取引が今後本当に活性化するのか討論した。また、スマートメーターのデータ利活用については、データの分解能や添付される属性情報のあるべき姿を確認した。

以上